

寸言

中日本航空株式会社
代表取締役社長
柴田 拓



航空へのこだわり-ALL@SKY-ソラノコト全部

このたび、弊社は伝統ある日本航空宇宙工業会に入会させていただくことになりました。入会に際しましては多くの皆様にお世話になりました。この場をお借りしお礼申し上げます。

さて、私ども中日本航空は戦後間もない1953年5月に名古屋の地でセスナ2機と数名の従業員で産声を上げ、今年で創業63年を迎えました。

現在はヘリコプター62機、飛行機10機（含ジェット機3機）を保有し、県営名古屋空港内の本社及び北海道から石垣島まで10か所で運航所を展開し、他に県防災ヘリ6機と国の防災ヘリ3機の受託運航、全国13拠点でのドクターヘリの運航など定期航空を除く航空事業と航空調査測量事業を2本の柱に、社会の様々な空に関するニーズに応えるべく業務に励んでおります。

ここで弊社の歴史的なエポックを振り返りながら、現在の事業の一端をご紹介させていただきます。弊社は1963年にダグラスDC-3やコンベアCV-440を購入し名古屋を中心とした定期路線を開設しましたが、国の航空統合政策により1965年に日ペリ航空（現全日空）にすべて譲渡し、以後日ペリ航空のヘリコプターを譲り受けヘリ主体の産業航空へと変貌します。またYS-11の2号機を購入し、1976年からは空中磁気探査事業を実施、マルチスペクトルカメラを搭載した我が国初の航空機リモートセンシングをスタートさせ、航空測量、航空機リモセン解析事業に乗り出しました。このDNAは現在、航空機からのレーザー計測技術による地形細密計測で防災や災害対応に、またマルチスペクトルセンサーによる地球温

暖化や作物生育調査、コメの旨味調査などへ引き継がれています。更には地熱探査や重力探査も手掛けています。

1984年には我が国初のヘリ救急となる日本救急ヘリコプター(株)を設立し、救急搬送事業を開始しました。その後、国によりドクターヘリのシステムが構築されたため、救急ヘリ会社の役割が終了したとして2000年解散。ドクターヘリは、今や全国51拠点でネットワークが図られています。

1999年2月からは国内臓器搬送第1号をC-560で行い、以後今日まで臓器移植ネットワークとのタイアップにより今年6月1日時点で合計262例目を無事搬送し命のリレーのお手伝いをしています。また、沖縄では野菜や果物などの果実が全滅することを防ぐため不妊処理したミバエ類をヘリから散布し拡散阻止するとともに、ミバエの本土上陸を阻止する事業を続けています。

一方、弊社は小型航空機の整備事業も手掛けており、特にヘリコプターについては国の認定事業場のほか、ヘリメーカー3社のCSF(Customer Service Facility)を取得し、年間100機近くの機体整備事業をさせていただいております。以上のように、弊社はALL@SKY-ソラノコト全部-をキャッチフレーズに、定期航空以外の「もう一つの空」の安全・安心社会の構築に向けお手伝いさせていただいております。

これからも中日本航空は「空」に関する様々な事業を通じて社会に貢献できるよう、一層努力していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。